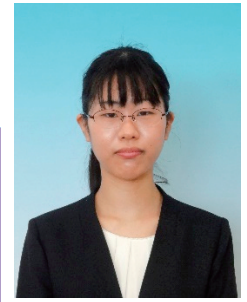


研究タイトル:

平安時代後期物語『夜の寝覚』の研究



氏名: 池田 彩音 / IKEDA Ayane E-mail: ikeda@fukui-nct.ac.jp

職名: 助教 学位: 博士(文学)

所属学会・協会: 中古文学会、日本文藝学会、立命館大学日本文学会

キーワード: 物語文学、平安時代、『夜の寝覚』、『源氏物語』

 技術相談
 提供可能技術: ・くずし字で書かれた資料を読みたい方、日本の古典文学を読みたい方などに向けて、公開講座や出前授業、情報発信ができればと考えています。

研究内容:

【平安時代後期の物語『夜の寝覚』とは何か】

平安時代にはさまざまな物語が作られました。その中でも特に有名なのは、『源氏物語』でしょう。その『源氏物語』の影響を受けながらも、一貫して一人の女性を中心人物に据えるという趣向を凝らした、『夜の寝覚』という物語があります。

この物語は、鎌倉時代の物語評論書『無名草子』で高く評価されているほか、絵巻が作られたり、改作本が作られたりと、二次創作意欲をかき立てるほどに注目されていたことがわかります。

残念ながら、現在はその全てを読むことができるわけではなく、物語の中間と末尾が失われた状態の本でしか、読むことができません。しかしながら、かつて注目されていた作品であったがゆえに、他の資料の記述からその内容を推察できます。

他の資料の扱いには注意が必要ですが、現存する『夜の寝覚』の記述と他の資料の記述を検討し、どのようにつながりを見出すことができるか、どのように解釈が可能かということを中心に問い続け、『夜の寝覚』という作品をいかに捉えることができるかについて研究を進めています。

【女性を主人公として物語を展開させる方法は何か】

平安時代、特に身分の高い女性は、行動範囲や交流関係も限られていました。光源氏という男性を主人公とした『源氏物語』と比べて『夜の寝覚』が大きく異なるのは、そうした物語を展開させるうえで制約のある女性を主人公に据えている点です。『夜の寝覚』が物語を展開させるのに用いた方法とはどのようなものか、ということに関心を持ち、主としてその言葉の使い方や意味の分析を通して考察を行っています。

これまでの研究では、人物造型や『源氏物語』などの先行作品との関わりから、物語が必然的に展開していくような言葉が意識的に配置されていることがわかってきました。こうした検討を通して、『夜の寝覚』という作品についてだけでなく、『夜の寝覚』が他の先行作品などをいかに読み取っていたか、ということについても明らかになってきました。

『夜の寝覚』は全貌のわからない作品ではありますが、他の作品にはない特徴を持ち、平安時代後期という時代を知るために重要な作品です。日本文学史を正確に把握するには、この作品の検討が不可欠だと考え、研究を行っています。